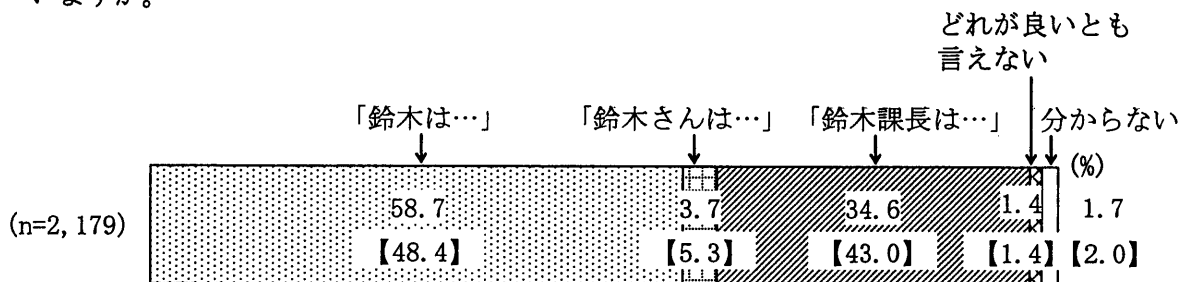


## 「外部の人への言い方」について

(平成16年度・文化庁「国語に関する世論調査」から抜粋)

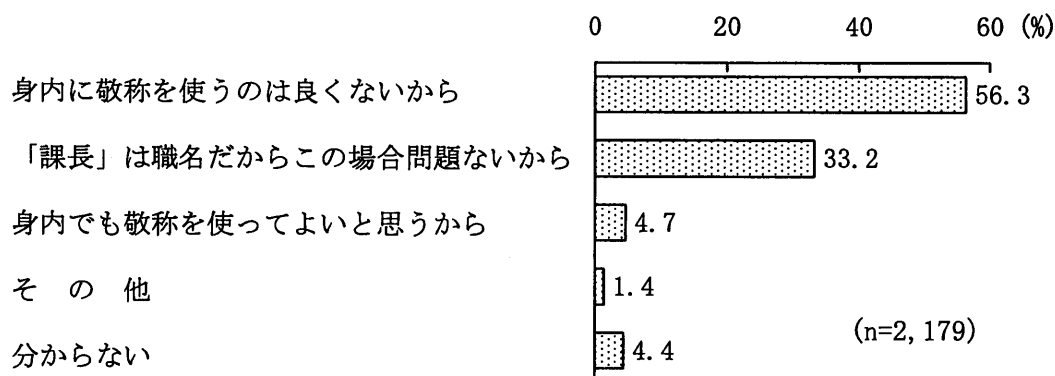
## 9. 外部の人への言い方（会社の受付の人の場合）

問9〔回答票〕会社の受付の人が外部の人に、自分の会社の鈴木課長のことを話す場合、「鈴木は…」と言うのと「鈴木さんは…」と言うのと「鈴木課長は…」と言うのでは、どれが一番良いと思いますか。



【 】内は平成9年度調査結果 (n=2, 190)

付問〔回答票〕それを選んだ理由をお答えください。



会社の受付の人が外部の人に、自分の会社の鈴木課長のことを話す場合、どういう言い方をするのが良いかを尋ねた。

名字のみの「鈴木は…」(58.7%)の割合が最も高く6割近くを占め、次いで、名字に役職名を付けた「鈴木課長は…」(34.6%)が3割強となっている。名字に「さん」を付けた「鈴木さんは…」は3.7%とわずかである。

各選択肢を選んだ理由としては、「身内に敬称を使うのは良くないから」が56.3%で最も高く、「「課長」は職名だからこの場合問題ないから」が33.2%、「身内でも敬称を使ってよいと思うから」は4.7%となっている。

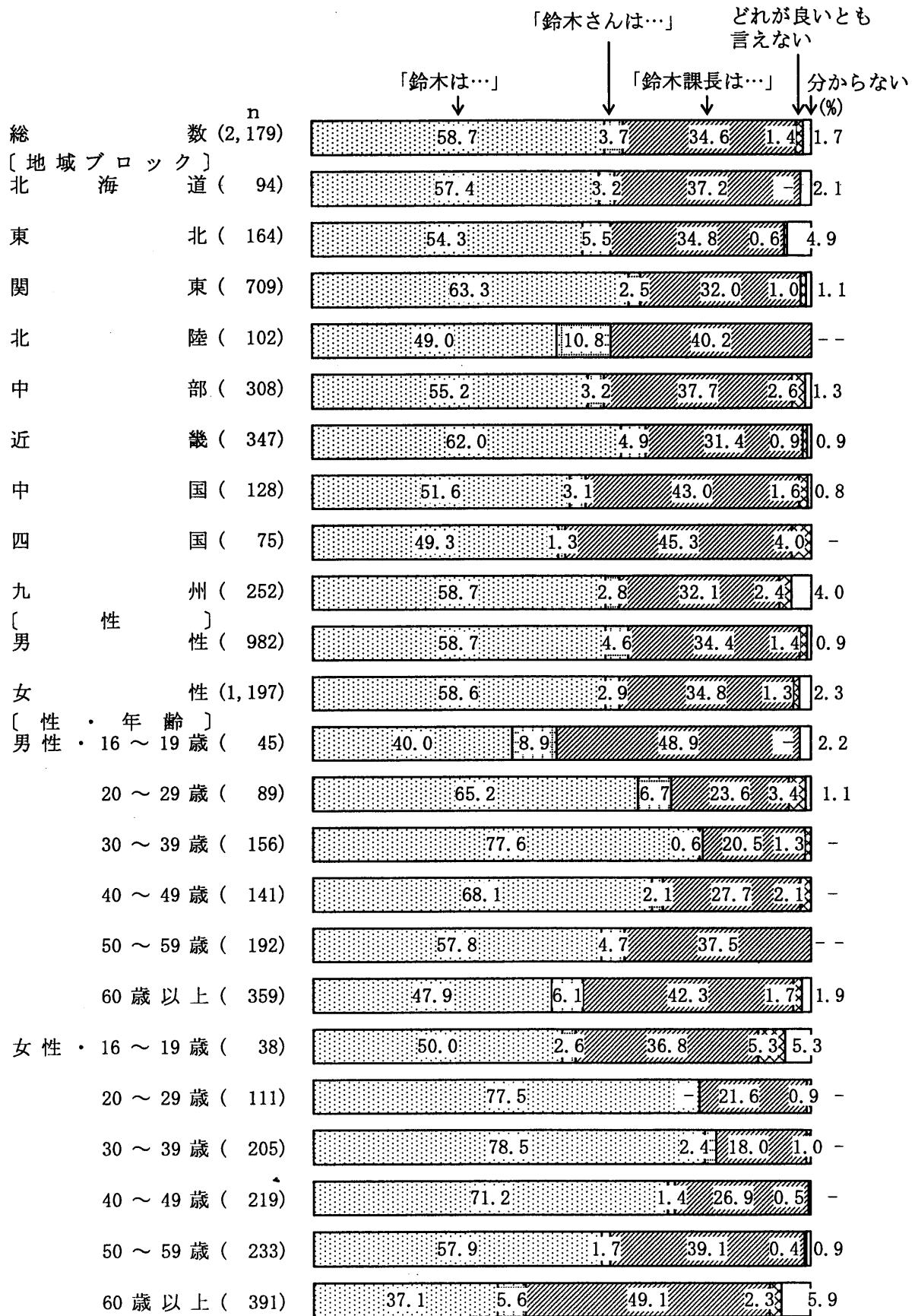
平成9年度調査結果と比較すると、「鈴木は…」の割合が10ポイントの増加、「鈴木課長は…」の割合が8ポイントの減少となっている。

地域ブロック別に見ると、いずれの地域ブロックでも「鈴木は…」と回答した人の割合が最も高くなっているが、関東(63.3%)と近畿(62.0%)では6割を超えるのに対し、北陸(49.0%)と四国(49.3%)では5割を下回っている。「鈴木課長は…」の割合は北陸(40.2%)、中国(43.0%)、四国(45.3%)で4割を超えている。

性別に見ると、男女差はほとんど見られない。

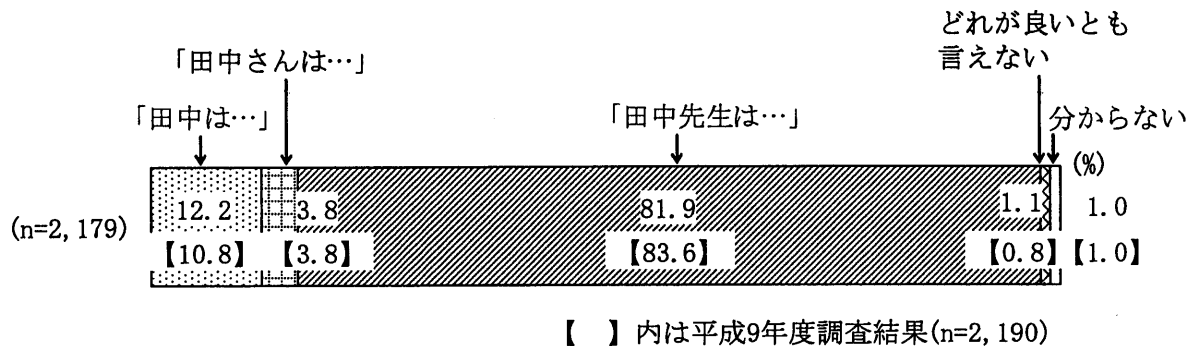
性・年齢別に見ると、「鈴木は…」と回答した人の割合は、男性の30代、女性の20～40代で7割以上を占めるが、女性の60歳以上、男性の16～19歳では4割ほどにとどまっている。これらの層では「鈴木課長は…」の割合が5割近くと「鈴木は…」を上回っている(図4参照)。

図4 外部の人への言い方（会社の受付の人の場合）（地域ブロック別、性別、性・年齢別）

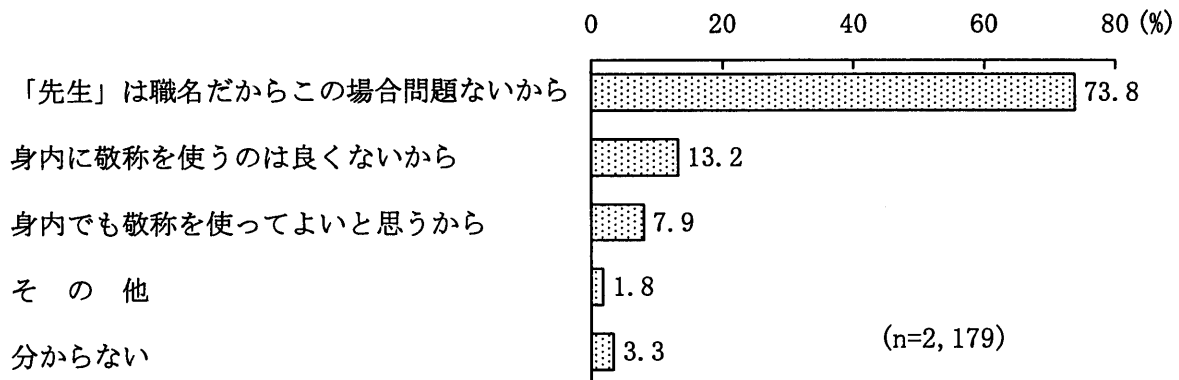


## 10. 外部の人への言い方（学校の先生の場合）

問 10〔回答票〕学校の先生が生徒の保護者に、同僚の田中先生のことを話す場合、「田中は…」と言うのと「田中さんは…」と言うのと「田中先生は…」と言うのでは、どれが一番よいと思いますか。



付問〔回答票〕それを選んだ理由をお答えください。



学校の先生が生徒の保護者に、同僚の田中先生のことを話す場合、どういう言い方をするのが良いかを尋ねた。

名字に「先生」という敬称を付けた「田中先生は…」(81.9%)の割合が8割を占め、名字のみの「田中は…」が12.2%、名字に「さん」を付けた「田中さんは…」が3.8%である。

各選択肢を選んだ理由としては、「「先生」は職名だからこの場合問題ないから」が73.8%、「身内に敬称を使うのは良くないから」が13.2%、「身内でも敬称を使ってよいと思うから」が7.9%となっている。

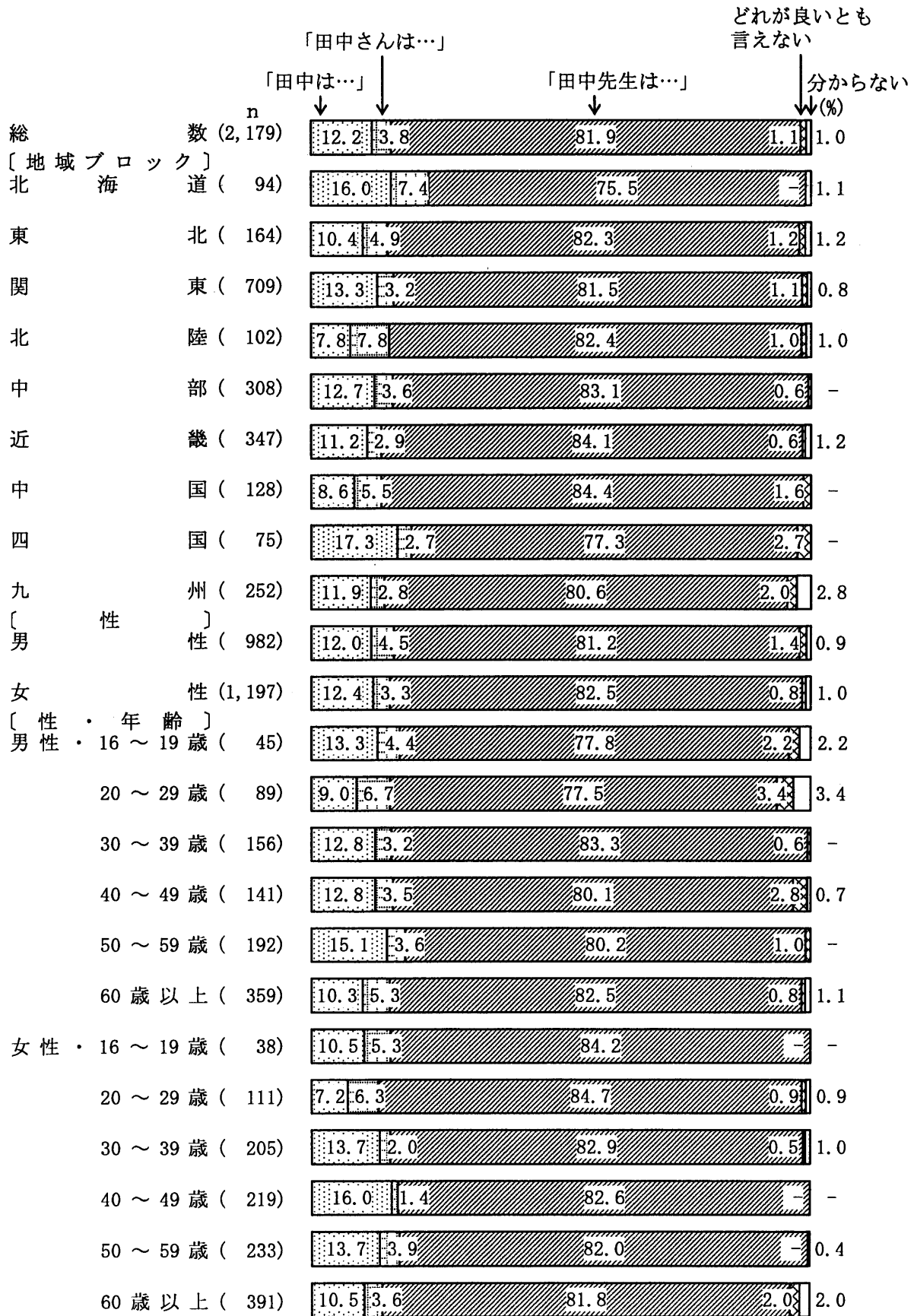
平成9年度調査結果との比較では、余り変化は見られない。

地域ブロック別に見ると、いずれの地域ブロックでも「田中先生は…」と回答した人の割合が最も高くなっているが、北海道(75.5%)と四国(77.3%)では8割を切り、この地域ブロックでは「田中は…」の割合が他の地域ブロックよりも高くなっている。

性別による差は見られない。

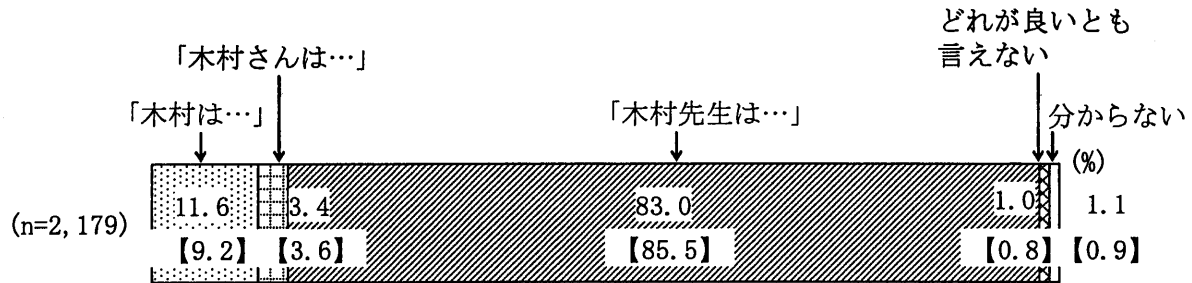
性・年齢別に見ると、「田中先生は…」と回答した人の割合は、男性の16～19歳(77.8%)、20代(77.5%)で8割を下回っているが、大きな差は見られない。「田中は…」の割合は男性の50代(15.1%)と女性の40代(16.0%)でやや高い(図5参照)。

図5 外部の人への言い方（学校の先生の場合）（地域ブロック別、性別、性・年齢別）



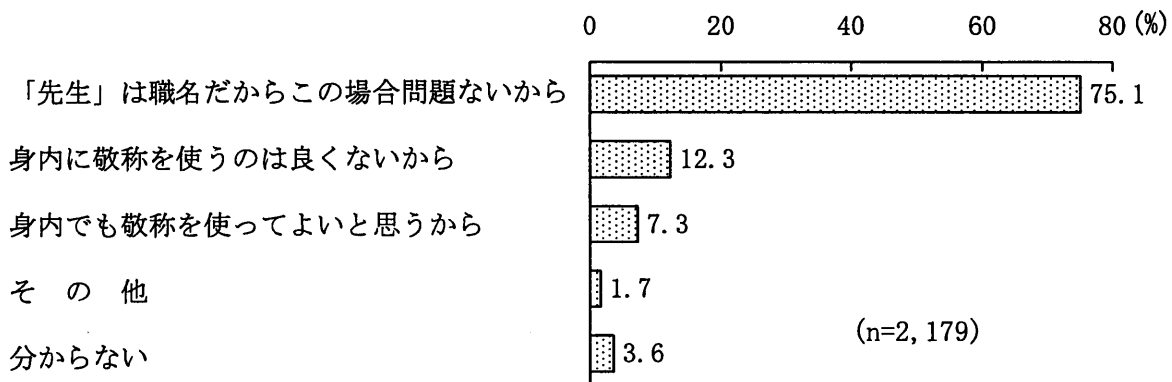
## 11. 外部の人への言い方（病院の医師の場合）

問 11〔回答票〕病院の医師が大人の患者に、同僚の木村医師のことを話す場合、「木村は…」と言うのと「木村さんは…」と言うのと「木村先生は…」と言うのでは、どれが一番よいと思いますか。



【 】内は平成9年度調査結果(n=2,190)

付問〔回答票〕それを選んだ理由をお答えください。



病院の医師が大人の患者に、同僚の木村医師のことを話す場合、どういう言い方をするのが良いかを尋ねた。

名字に「先生」という敬称を付けた「木村先生は…」(83.0%)の割合が8割強を占め、名字のみの「木村は…」が11.6%、名字に「さん」を付けた「木村さんは…」が3.4%である。

各選択肢を選んだ理由としては、「先生」は職名だからこの場合問題ないから」が75.1%、「身内に敬称を使うのは良くないから」が12.3%、「身内でも敬称を使ってよいと思うから」が7.3%となっている。

平成9年度調査結果との比較では、「木村先生は…」が3ポイント減少、「木村は…」が2ポイント増加となっている。

地域ブロック別に見ると、いずれの地域ブロックでも「木村先生は…」と回答した人の割合が最も高くなっているが、北陸(88.2%)、中部(87.0%)、中国(88.3%)では9割近いが、北海道(77.7%)、東北(79.9%)、四国(76.0%)では8割を切っている。

性別による差は見られない。

性・年齢別に見ると、「木村先生は…」と回答した人の割合は、男性の16~19歳(75.6%)、20代(79.8%)で8割を下回っている一方、女性の60歳以上(87.7%)で9割近くになっている。「木村は…」の割合は男性の30代(16.0%)と女性の40代(16.4%)で高くなっている(図6参照)。

図6 外部の人への言い方（病院の医師の場合）（地域ブロック別、性別、性・年齢別）

